

カリキュラムマップ（多文化コミュニケーション学科）

多文化コミュニケーション学科のカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

グローバル化が進む中、異なる社会で暮らす人々の異なる文化的背景、異なるものの考え方を持った人々と協働し、共生していくために必要となる知識・教養、コミュニケーション能力を修得し、実践的な活動的学習のなかで多文化共生社会に貢献できる能力を身につける。

- 英語、World Language 科目によって、実践的な外国語運用能力を身につける。また、日本語運用能力も向上させて、グローバル社会で通用する言語能力、コミュニケーション能力を養う。また、メディアリテラシーを向上させ、主体的に情報に相対する能力を養う。
- 異なる文化・社会を理解するために求められる知識・教養を身につけ、社会にはたらきかける協働的作業を実践するために必要となる、調査・分析・企画・チームビルディング・リーダーシップのスキルを養う。
- 長期短期の語学留学、文化研修、ボランティアプログラム、インターンシップなどの活動的学習によって、他者と協働して理論と実践を結びつけて課題を解決する能力を身につける。

多文化コミュニケーション学科のディプロマポリシー（学位授与の方針）

- 知識・理解
 - 英語とアジアの言語について理解している。
 - 国内外において多様な文化的背景を持つ人々とコミュニケーションをとるために、文化・民族・社会問題などについて理解している。
 - 社会貢献や国際貢献の現状と課題についての基本的な知見を持っている。
- 汎用的技能
 - グローバル化が進む社会で、多様な文化的背景を持つ人々と積極的に関わりを持ち、コミュニケーションをとって協働するために十分な外国語と日本語の能力を身につけている。
 - 協働の場で生じるグローバル社会ならではの問題を理解する際に、メディアを主体的に読み解き活用できる。
 - 問題の基本的理解にもとづいて課題設定を行い、解決のために行動を実践にうつすことができる。
 - 課題解決のために必要なリーダーシップをとることができる。
- 態度・志向性
 - 多様な人々・文化に対する開かれた好奇心を持ち、柔軟な心で課題解決に向かって進んでいけるマインドセットを持っている。
 - 自律的、自主的に学習・研究・活動に取り組み、情報に批判的に向き合うことができる。
 - 自らの経験から得た知見を他と共有し、社会に自分を還元することによって、多文化共生に向けて社会参加・社会貢献に積極的に取り組む志向性を持っている。
- 統合的な学習経験と創造的思考力
 - 留学・国内外での研修・インターンシップ・ボランティアなど、社会の現場での学びを通して自らの体験を言語化できる。
 - 言語能力を活かしてコミュニケーションを取り、情報を発信することができる。
 - 多様な人々と効果的なネットワークを構築し、チームワークによって多文化社会における問題の解決に協働的かつ創造的に当たることができる。

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム								カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目			
授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的に書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
文化人類学	文化人類学は、文化という概念を通して、世界の人々の生活の営みや社会の様々な事象を学びながら、「人間とは何か」について考える学問である。本科目は、文化人類学の入門編と位置づけ、世界の多様な事例に触れながら、文化人類学の基本的な考え方である文化相対主義や他の主要な概念、アプローチ、方法論について学習する。	文化相対主義の意味と自文化中心主義の本質的な問題点を明確に解説できる。 ・エスノグラフィーを中心とした文化人類学の研究手法とその意義を説明できる。 ・家族、結婚、通過儀礼、宗教、ジェンダーに関する考え方の普遍性と多様性について、例を交えながら説明することができる。	2	○	1	前期	1	-	◎		
アメリカ/カナダ文化・社会論	多民族国家・多文化国家であるアメリカ社会のなりたち、アメリカ人のものの考え方の基盤を知り、アメリカ人の日常生活を理解する。同時にアメリカ人の考え方がよくわかる言葉をも習得する。	アメリカ社会のなりたち、アメリカ人のものの考え方の基盤、アメリカ人の日常生活が理解できる。	2		2～	後期	2	-	◎		○
ヨーロッパ文化・社会論	「欧米」と言ったとき、ヨーロッパを思い浮かべますか？ヨーロッパとはEU(欧州連合)のことですか？まず、ヨーロッパを地理的、政治的、社会的、文化的な側面から整理してみましょう。そして、多様な文化が集まるヨーロッパの1つとしてフランスを取り上げ、その人口や家族像の変化を把握し、フランス社会の諸制度を理解する。さらに、個々人のライフコースが多様化する中でフランス社会における女性をめぐる現代の状況を理解しながら、日本社会を相対化し、自分自身のライフコースについて考える一助となることがねらいである。	ヨーロッパとは何かを理解するため、さまざまな顔をもつヨーロッパの1つである現代のフランスを通して、その社会と文化の基礎的知識を習得することが目標である。また、ヨーロッパそしてフランスに対する理解を深めながら、日本社会と比較する視点を養うことができるようになることが目標である。さらに、紹介された事例を通して、社会のシステムや価値観について各自問いを立て、その問いに対するひとつの考え方を見つけようとする力をつけることが目標である。	2		2～	後期	3	-	◎		○
中国文化・社会論	現代中国の文化社会について、その一端を理解する。	中国に関する報道に接したときにだいたいの背景が理解できる。	2		2～	後期	2	-	◎		○

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム								カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目			
韓国文化・社会論	伝統と歴史意識が反映された規範と制度を通して韓国文化の特徴を知り、理解できる。日本との比較を通して日韓の文化および社会の相互理解を深め、日本と韓国の未来志向的な関係を構築するための知識を学ぶことを目的とする。	韓国の文化および社会の基礎知識を学習することができる。日韓の文化および社会の相互関係を理解できる。日本と韓国の未来志向的な関係を構築するための知識を学習できる。 【MCC10】◎文化理解、社会問題理解 ○多文化共生構想力	2	2～	前期	2	-	◎			○
東南アジア文化・社会論	東南アジア地域についてASEAN(東南アジア諸国連合)を軸に、加盟する10か国の文化的、社会的概要、及びASEAN共同体の略史や日本との関係等について学ぶ。次に、ASEANの中でも特に日本との繋がりが深く世界第4位の人口を持つ東南アジアの大国インドネシアに焦点を当て、日本との関係をキーワードに、歴史、文化、宗教、言語、貿易等様々な観点から、その関係や課題を考え将来の関係へと繋がる学修をする。	東南アジアについてASEAN(東南アジア諸国連合)を軸に加盟10か国の文化的、社会的概要、及びASEAN共同体の略史や日本との関係等について知り、ASEAN諸国の中でも特に日本との関わりが深い東南アジアの大国「インドネシア」について、その歴史、生活、文化、国際関係などを学び、そのいずれもが日本と深い関わりを持っていることを学習する。	2	2～	後期	2	-	◎			○
オセアニア文化・社会論	多文化主義国家と知られるオーストラリアやニュージーランドの移民や先住民の社会と文化、国家との関係を中心に、オセアニア地域の社会、文化変化と現在について、「多文化共生」に焦点をあてて概説する。また、それぞれの社会を支える論理を検討し、さまざまな立場にたちながら、現代の多文化・多民族社会が抱える課題を読みほどこいていく。	オセアニア、特にオーストラリアやニュージーランドの移民や先住民の社会変化と現在を、我々と地続きの経験として理解することができる。また、自分自身が移民や先住民をめぐるさまざまな問題にいかに関われるかを考えることができる。 【MCC10】◎文化理解、社会問題理解 ○多文化共生構想力	2	2～	後期	2	-	◎			○
異文化理解論	「異文化理解」についてのさまざまな考え方を知り、批判的に考察できることを目的とする。	グローバル化が進む中、「異文化」とは何かについて知る。「理解」とはどのような行為を意味するのかについて分析する。「異文化理解」を「多文化共生」との関係から考察できる。「異文化理解」について、自らの文脈に基づいて説明できる。 【MCC10】◎社会問題理解 ○文化理解、多文化共生構想力	2	2～	前期	3	-	◎			○
グローバル・シティズンシップ入門	学科教員およびゲストスピーカーを迎えて講義やワークショップを行いながら、多文化コミュニケーション学科が扱う領域の中でも「文化」「異文化」「地域研究」「言語」「共生」に関する講義をオムバス形式で行う。	学科教員およびゲストスピーカーを迎えて講義やワークショップを行いながら、多文化コミュニケーション学科が扱う領域の中でも「文化」「異文化」「地域研究」「言語」「共生」に関する基本的なテーマを知る。また授業課題を通して、E-mailの使用に慣れ、パソコンでの文書作成の基本スキルを身につける。 【MCC10】○文化理解、社会問題理解、問題解決理解、異文化間コミュニケーション力	2○	1	前期	1	参加型ワークショップ	◎			○
世界の近現代史	21世紀を生きる私たちの身の回りには様々な問題が存在しています。例えば領土を巡る争い、社会内部や国家間における格差、工業化とそれに伴う自然環境の破壊、特定の民族集団に対する差別や迫害、そしてグローバル化。こうした諸問題は何の脈絡も予兆もなく、ある日突然私たちの目の前に立ち現れたのでしょうか。本授業では、世界の近現代の歴史を手掛かりとして、いまを生きる私たちの周囲で起きている出来事のルーツを探り、それがどのような変遷を経て現在に至っているのか、つまり出来事の成り立ちを学びます。具体的には、ヨーロッパが海外膨張と植民地支配を始めた15世紀末からスタートし、フランス革命、工業化、帝国主義、二つの世界大戦を経て、20世紀末の冷戦終結までの主なトピックを取り上げ、その基本的な知識を習得します。そしてそれを用いて、現代世界の課題を見つけ、議論し、解決するための能力を育むことを狙いとします。	歴史的な視点から現代世界の抱える諸問題を捉え、議論するための基礎を培う。 【MCC10】◎社会問題理解 ○文化理解	2○	1	前期	1	-	◎			

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目					
グローバル・イシューズ	私達は世界市民として、国内外の人々や社会と積極的に関わり他者と協働しながら、全ての人々にとってより「豊か」で「生きやすい」社会を築いていかなくてはなりません。そのためには、私達は人類が共通して直面する世界規模の諸課題について関心を持ち、学習し、課題解決のために行動しなければなりません。 本授業は、国際学部多文化コミュニケーション学科における学びのイントロダクションとして位置づけ、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」と関係付けながら、環境、平和、多文化共生、人権の4つのテーマについて学びます。各テーマでは、どのような問題があるのか、なぜそうした問題が重要なのかについて学び、私達はそれらとどう向き合うべきなのかについて理解を深めることを目的とします。 なお、授業は4名の教員によるオムニバス形式でおこなう。	【全体】 ・「持続可能な開発目標(SDGs)」とは何かについて、幾つかの具体的な開発目標に触れながら概説できる。 ・「持続可能な開発目標(SDGs)」の必要性について、自らの考えを交えながら解説できる。 【環境】 ・人新世と人類との関わりについて、温室効果ガスや生態系破壊などの事例を複数用いながら解説することができる。 ・自然環境を持続可能なかたちで利用していくために私達が取り組まなくてはならないことについて、少なくとも5つ例示することができる。 ・エコロジカル・フットプリントとはどういう考え方なのかを解説できる。 ・自らのエコロジカル・フットプリントの値を基に、求められる具体的な行動の変化を解説することができる。 【平和】 ・平和についての基本的な概念を持って対話しながら考えることができる。 ・平和に対する自分の考えをふまえながら、知ったことを分かりやすく伝えることができる。 ・平和を構築するための自分なりの行動指針を具体的に考えて表現することができる。 【多文化共生】 ・多文化共生に関わる諸課題とその解決のための取り組みについて例を挙げながら解説することができる。 ・外国にルーツを持つ子どもを取り巻く課題について解説することができる。 ・多文化共生のために自身ができることや取り組みたいことを述べることができる。	2	○	1	1	◎					
多文化教育論	人の国境を越える移動に伴い、日本の学校において外国籍の子どもや外国にルーツをもつ子どもが教育を受けている。その際、どのような教育を行うべきか検討する枠組みとして、多文化教育という考え方がある。多文化教育は、社会的公正の立場からマイノリティグループの歴史、ことばや生活体験を価値ある「文化」として教育カリキュラムの中に位置づけることなどにより、多文化社会における多様な民族・文化集団の共生をめざす教育運動であり、その実現に向けた教育実践である。アメリカにおける多文化教育のはじまり、現状や議論について検討し、そのうえで日本における多文化教育の可能性、そして多様性と教育に関わる問題について知り、理解できるようにすることを目的とする。	アメリカにおける多文化教育の現状について検討し、そのうえで日本における外国人児童生徒教育など多文化教育の可能性、そして多様性と教育に関わる問題を批判的に分析する視点を身につける。 【MCC10】◎社会問題理解 ○多文化共生構想力	2	2	～	後期	2	シナリオ型 PBL、ロールプレイ	◎		○	
多文化社会論	在日コリアンを事例に、在日外国人の人権についての基本的知識(歴史的経緯、法的地位、社会保障権、民族教育問題、政治参加など)を身につける。	在日外国人問題について卒業論文がかけるような問題意識をもち、自分でフィールドワークできるスキルを身につける。 【MCC10】◎社会問題理解 ○文化理解、メディア・リテラシー、多文化共生構想力	2	2	～	前期	2	-	◎	○	○	
マイノリティ・スタディーズ	障害者・女性・子ども・人種/民族的少数者・性的少数者(LGBT)・被差別部落等、日本社会においてその属性が権力的に少数派(マイノリティ)に位置する集団の人権の歴史、現状、課題について、国際的な動向等も踏まえながら理解する。また、そのようなマイノリティの視点から社会を眺めることができ、ダイバーシティを踏まえた社会のあり方、制度等をデザインするとはどういうことなのかを具体的な事例を踏まえて理解する。	さまざまなマイノリティの現状、課題について、基礎的な理解を示すことができる。また、これらマイノリティについてのメディアの情報発信のあり方に批判的に向き合うことができるようになるとともに、マイノリティの視点を踏まえたダイバーシティや共生社会についてのイメージを持つことができる。 【MCC10】◎社会問題理解 ○文化理解、メディア・リテラシー、多文化共生構想力	2	2	～		2		◎	○	○	
国際協力論	国際社会の中で、援助機関(国連、各国政府機関、NGO)などが、援助においてどのような取り組み(プロジェクト)を行っているのか、またそれに関する課題について考える。	開発途上国の課題を知り、国際協力に関わる国際社会の動向、援助機関の支援の仕組みと課題について理解できる。また、自身が国際協力活動にどのように関わることができるか、考え、実践することができる。 【MCC10】◎社会問題理解 ○問題解決理解	2	2	～	前期	2	グループワーク	◎			
留学事前研修	留学に伴うメリットとリスクを理解した上で、適切なリスク管理の方法を学ぶ。具体的にはカルチャーショック、身体的・精神的な健康管理、アサーティブネス、犯罪の回避、社交と人間関係に関するリスクの理解といった項目を含む。また、研修先の文化的・社会的状況を学び、一人一人の受講生が留学先での文化的学習プロジェクトを立案する。更に、英語学習に関する留学前の目標設定を行い、ポートフォリオを管理しながら学習サイクルを進めることを身につける。	留学先でのリスクを理解し、適切なリスク回避の方法を身につけること。自身の留学先の文化的社会的状況に対する理解を深め、必要な情報収集のスキルを身につけること。留学にむけて自己分析を行い、留学先での課題設定や英語学習の目標設定を行い、グループワークを通して共有すること。 【MCC10】◎課題解決力 ○文化理解、社会問題理解	1	1	～	前・後期	1	グループワーク	○	○	◎	○

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目				
留学事後研修	学科が提供する海外学習プログラムを修了し帰国した学生に対する事後研修授業である。事前に設定した留学先での文化学習プロジェクトについて成果を公表するとともに、留学の体験を振り返り言語化して共有する。また帰国後、英語力を維持する活動についての目標設定を行う。更に、次年度の留学参加者のための報告会、ワークショップを立案し、運営するプロジェクトを実施する。	事前研修の目標設定に基づき、留学の成果を振り返って評価すること。留学を通して得た経験や自身の成長について言語化を行い、グループワークを通して共有すること。留学の経験を報告会などの形で伝えるためのプロジェクトを立案し、実施すること。	1	2～	前・後期	1	グループワーク、PBL	○	◎	◎	◎
多文化共生論	近年日本においても外国人や外国とつながりのある人々が暮らすようになり、社会の「多文化化」が進んでいる。国籍のみならず人種や民族の多様化、また「ハーフ/ダブル」といった複数でハイブリッドなアイデンティティをもつ人々も増えている。それは社会に活力を与える一方で、ヘイトスピーチなど排外主義をもたらす要因ともなっている。日本は多文化社会にどのように向き合っていけばよいのか。授業では、特に多文化・多民族国家の先進事例として、イギリスにおける多文化・多民族化、および多文化主義政策を取り上げ、イギリス社会が人種・民族の多様化にどのように対応してきたか(いるか)を概観したのち、日本社会の「多文化」に目をむける。そのうえで、日本における多文化共生の課題について検討する。	イギリス社会が人種・民族の多様化にどのように対応してきたか、日本社会の「多文化」の状況を概観することを通じて、日本における多文化共生の課題について分析する視点を身につけることを目的とする。	2	3～	前期	3	-	◎			◎
開発と女性	開発途上国における諸問題、それに関する国際社会の動向について理解する	現在の開発途上国の実態や課題について学ぶと共に国際社会の動きについて理解する。また、自身が開発途上国の支援にどのように関わることができるか、考え、実践することができる。	2	3～	後期	3	グループワーク、発表、ディスカッション	◎			◎
環境と開発	開発は人々の生活に様々な恩恵をもたらした一方で、しばしば地域の、また時には遠く離れた場所の自然環境を破壊してきた。本科目では、開発と環境の関係を社会、政治、文化の視点から捉え、環境破壊が生じる要因やプロセス、そしてその影響について学ぶ。その上で、自然資源保護や環境保護のアプローチ、考え方、政策について学び、環境と開発が両立する社会のあり方について考える	・個人や集団間には環境や開発に対する様々な考え方が存在することを認識し、それに基づき思考を巡らすことができる。 ・環境問題における貧困問題の解消の重要性について事例を交えながら解説できる。 ・具体的な環境問題を取り上げ、「環境正義」の概念を説明することができる。 ・具体的な環境問題について、様々な角度から多面的に分析することができる。 ・環境問題に対し、今我々ができることを自分で考え、論理的に説明できる。	2	3～	後期	3	ディスカッション、グループワーク	◎			◎
国際関係論	女性・環境といった視点から「平和」とは何か、よわい立場の者がどうやって平和をつくりだすことができるかをまなぶ。平和とは何かを真剣に考え、まなぶ必要が起こったのは、ここ100年あまりのあいだ、人間の起こす戦争や経済開発があまりにもたくさんの人を傷つけ、正義が失われ、未来に希望がもたなくなってきたからだ。そして正義や希望を、現代に生きる人間たちがとりもどそうとする努力の中から、さまざまな平和論・平和学がつくりだされてきた。授業の序盤では、平和学の基礎知識の概説をおこなう。中盤では平和憲法について学び、後半では、女性が中心になって民衆にとっての平和の創造にとりくんできた現代沖縄の歴史・思想・文化をとおして、女性が生きる上で必要な平和実践のあり方をまなぶ。	平和に関する基本的な概念ツールを理解する。女性・子どもなど権力をもたない弱い立場の者が平和をつくりだす思想や方法をまなぶ。	2	3～	前期	3	-	◎			◎
貿易実務の英語	貿易実務検定試験C級を想定し、貿易実務に関わる英文を読み、書けるようになることを目的とする。また、英文ニュース記事等を利用して、貿易経済をめぐる現代的問題についての理解を深める。中級レベルの英語力を前提とし、「ビジネスコミュニケーション」を履修済みであることが望ましい。	貿易実務検定C級「貿易実務」科目の合格レベルただし、授業時間数が限られているため、検定試験の主要な部分を勉強する。	2	2～	前期	2	-	◎	○	○	○

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目					
グローバル・キャリア論	グローバル化が進展する中で、グローバル化とICT革命によって求められる人材像が大きく変化している。そこで、グローバル化によって何が起きているのかを理解し、その中で、自分自身のキャリアデザインをするために必要な知識を身につけ、自らのキャリアデザイン・キャリアプランニングを的確に行える能力を身につける。	(1)グローバル化及びICT革命が雇用・人材開発に与えた影響について理解し、説明できる。(2)日本と諸外国の雇用システムの違いを理解し、それが形成された経緯及び我が国にもたらした影響について基礎的な理解を示すことができる。(3)女性がキャリアを積むにあたっての障害及びそれが形成された歴史的経緯について理解し、説明できる。 【MCC10】○社会問題理解、問題解決理解、課題解決力	2	○	2	2	◎					
グローバル・ビジネス論	グローバル化の中で、グローバル人材として最低限知っておくべき経済的知識を身につけるとともに、グローバル化の負の側面を緩和するための主にビジネス界を中心とした取り組みについてCSR(企業・組織の社会的責任)の観点から概観する。	(1)ミクロ経済学の価格決定理論の初歩と財市場、金融市場、労働市場の役割、マクロ経済学において用いられる諸概念について基礎的な理解を示すことができる。(2)グローバル化のもたらす正の側面と負の側面を理解し、それぞれがもたらす具体的な影響について説明できる。(3)CSRの概念及びその推進を担う国際的組織について理解し、その具体的な取り組みについていくつか説明ができる。 【MCC10】○社会問題理解、問題解決理解	2		3	3	◎					
フィールドワーク入門	フィールドワークとは、実験室や図書室での学習ではなく、関心対象となる場所を自分で訪ね、また物を観察したり、人にインタビュー(取材)することで、具体的な事例を集めて学ぶ作業です。フィールドワークの対象は様々です。たとえば関西にはさまざまな外国人が住んでいて、独特の文化を生み出しています。フィールドワークを通じてかれらがどんな生活をしているのかを理解します。また神戸は被災地でもあります。当時の人々はどのように未曾有の震災を体験したのでしょうか。そして3.11にどのように反応したのでしょうか。過去の経験を記録するのもまたフィールドワークの重要な課題です。神戸か大阪での個別調査やグループでの実習を必須とします。	自分の関心をもって問題をたて、現場での観察やインタビューを通じて資料を集め、実態を理解し、そこから問題解決の道を明らかにすることができる。フィールドワークの基本を身につける。フィールドワークを主たる方法とする文化人類学やライフストーリー、オーラルヒストリーについての理解を深める。フィールドワークを通じて、自分の家族、友人、大学、大学周辺、神戸の町などについて理解を深める。 【MCC10】○文化理解、言語運用力、異文化間コミュニケーション力	2	1	～	前期	1	グループワーク	○	○	○	
異文化間コミュニケーション論	文化背景が異なる人々との間のコミュニケーションで生じる、カルチャーショック、誤解、対立といった経験の基本的なメカニズムについて、これまでの研究知見に基づく理論、映像やワークショップによる疑似体験を通じて理解する。文化背景の異なる人々との「共生」のための異文化間コミュニケーションにおいて、必要な考え方、スキルについて学ぶ。	国籍、言語、民族、社会階級、ジェンダー、世代、地域などの違いや、障害の有無など、文化背景が異なる人々とのコミュニケーションにまつわる自分自身の「経験」を分析し、理論に基づき言語化できるようにする。また、今後遭遇する可能性のある異文化コミュニケーションの場面で、効果的に対応できるようになる。 【MCC10】◎異文化間コミュニケーション力 ○文化理解	2	1	～	後期	1	グループワーク、シミュレーションゲームなど	○		◎	
組織マネジメント入門	「組織」および「マネジメント」とは何かについて知り、その意味を理解する。組織運営(マネジメント)に必要なミッションや事業内容について主体的に考える。	授業の中で、組織運営等を目的として、ミーティングや情報収集、分析、計画立案、広報、プレゼンなどを実際に受講生の中で行い、組織の中での自分自身がどのような働き、関わり方をすれば良いのかを考え、その素養を身につける。また、集団の中で、自分の意見をどのように表現し、合意形成が取られていくのかをテーマを決めて解決していくチームワークの能力を身につける。 【MCC10】◎共有型リーダーシップ ○問題解決理解、課題解決力	2	1	～	後期	1	グループワーク、シミュレーションゲームなど	○		◎	○
ボランティア論	日本社会におけるボランティアの意義、動向、活動、課題について学ぶ。	社会にどのように関わるか、また貢献できるのかを考え、行動できる。 【MCC10】◎問題解決理解 ○社会問題理解	2	1	～	前期	1	-	◎			
NGO/NPO論	NGO/NPOの現状や役割について考察するとともに、実際にNGO/NPO分野で活躍するリーダーをゲストスピーカーとしてお迎えし、現場の声に学ぶ。またプロジェクトを実際に企画するワークショップを通じて、私たち一人ひとりが国際問題や社会課題にどのように関わるることができるのか、その糸口を探る。	・NGO/NPOを生み出した社会的背景について理解する ・NGO/NPOの役割と課題について理解する ・社会参加のスキル・方法に関する知識を得る 【MCC10】◎問題解決理解 ○社会問題理解	2	2	～	前期	2	ディスカッション、グループワーク	◎			
行動演習 I	学科が重視する「活動を通しての学習」の導入として、グループに分かれ、企画から実践、そして、振り返りを一年を通して行う。	ボランティア活動、プロジェクトの企画・運営、フィールドワークなど、さまざまな活動への参加を通して、「今、ここ」での体験による気づきにこだわり、その解釈から学びを深めて次の行動へと生かす。その過程で、活動に必要な知識・スキル・態度を養っていく。 【MCC10】◎共有型リーダーシップ、課題解決力 ○社会問題理解、異文化間コミュニケーション力	2	2	～	前期	2	発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション	○		◎	

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目				
行動演習Ⅱ	学科が重視する‘活動を通しての学習’の導入として、個々の課題意識に基づいてさまざまな活動体験を通して学習する。	ボランティア活動、プロジェクトの企画・運営、フィールドワークなど、さまざまな活動への参加を通して、「今、ここ」での体験による気づきにこだわり、その解釈から学びを深めて次の行動へと生かす。その過程で、活動に必要な知識・スキル・態度を養っていく。 【MCC10】◎共有型リーダーシップ、課題解決力 ○社会問題理解、異文化間コミュニケーション力	2	2～	後期	2	発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション	○			◎
海外行動演習Ⅰ	GCPプログラム内の交換・認定留学に一年間参加する学生が、留学先で用意されたプログラム(渡航先の文化・社会などの課題に取り組むフィールドワーク、ボランティア、インターンシップ体験、組織的活動参加など)に参加し、自らの経験を言語化し分析する力とともに行動力を身につけることを目的とする。	留学先の言語運用力を高め、文化・社会についての理解を深めることができる。また、課題解決のための計画を立案し、実現に向けて行動することができる。 【MCC10】○社会問題理解、言語運用力(外国語)、異文化間コミュニケーション、課題解決力	2	2～		2		○	○	◎	○
海外行動演習Ⅱ	GCPプログラム内の交換・認定留学に一年間参加する学生が、留学先で用意されたプログラム(渡航先の文化・社会などの課題に取り組むフィールドワーク、ボランティア、インターンシップ体験、組織的活動参加など)に参加し、自らの経験を言語化し分析する力とともに行動力を身につけることを目的とする。	留学先の言語運用力を高め、文化・社会についての理解を深めることができる。また、課題解決のための計画を立案し、実現に向けて行動することができる。 【MCC10】○社会問題理解、言語運用力(外国語)、異文化間コミュニケーション、課題解決力	2	2～		2		○	○	◎	○
GCP海外演習AⅠ	大学が主催する短期(2週間以内)の海外演習プログラムに参加し、事前事後学習をとおして対象地域の言語・文化・社会を理解する。	海外演習プログラムの対象となる地域の文化・社会について理解を深め、言語能力を向上させ、交流活動などの体験を通じて気づきを持つ。 【MCC10】○文化理解、社会問題理解、言語運用力(外国語)、異文化間コミュニケーション力、課題解決力	1	1～		1		◎	○	○	○
GCP海外演習AⅡ	大学が主催する短期(2週間以内)の海外演習プログラムに参加し、事前事後学習をとおして対象地域の言語・文化・社会を理解する。	海外演習プログラムの対象となる地域の文化・社会について理解を深め、言語能力を向上させ、交流活動などの体験を通じて気づきを持つ。 【MCC10】○文化理解、社会問題理解、言語運用力(外国語)、異文化間コミュニケーション力、課題解決力	1	1～		1		◎	○	○	○
GCP海外演習B	大学が主催する短期(3週間から4週間)の海外演習プログラムに参加し、事前事後学習をとおして対象地域の文化・社会を理解しつつ、言語運用能力を高める。	海外演習プログラムの対象となる地域の文化・社会について理解を深め、言語能力を向上させ、交流活動などの体験を通じて気づきを持つ。 【MCC10】○文化理解、社会問題理解、言語運用力(外国語)、異文化間コミュニケーション力、課題解決力	2	1～		1		◎	○	○	○
GCPフィールド実践演習AⅠ	国内におけるボランティア、フィールドワーク等、本学科での学びである「語学」「教養」「行動力」を活かし、実際に体験的・活動的なプログラムに参加し、実践することを目的とする。	グローバル社会ならではの社会問題を解決すべく行われているさまざまな社会貢献、国際貢献活動の現状と課題についての基礎的な理解を示すことができる。さらに、自己や社会についての課題を発見し、さまざまな条件、制約を考慮してその解決策を吟味・選択し、目標設定を行い、計画を立て、結果を予測しながら実践することができる力、そしてそのプロセスを振り返って次の問題発見・解決につなげていくことができる力を身につけることができる。 【MCC10】◎課題解決力 ○社会問題理解	1	2～		3		○			◎
GCPフィールド実践演習AⅡ	国内におけるボランティア、フィールドワーク等、本学科での学びである「語学」「教養」「行動力」を活かし、実際に体験的・活動的なプログラムに参加し、実践することを目的とする。	グローバル社会ならではの社会問題を解決すべく行われているさまざまな社会貢献、国際貢献活動の現状と課題についての基礎的な理解を示すことができる。さらに、自己や社会についての課題を発見し、さまざまな条件、制約を考慮してその解決策を吟味・選択し、目標設定を行い、計画を立て、結果を予測しながら実践することができる力、そしてそのプロセスを振り返って次の問題発見・解決につなげていくことができる力を身につけることができる。 【MCC10】◎課題解決力 ○社会問題理解	1	2～		3		○			◎

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目				
GCPフィールド実践演習B	国内におけるボランティア、フィールドワーク等、本学科での学びである「語学」「教養」「行動力」を活かし、実際に体験的・活動的なプログラムに参加し、実践することを目的とする。	グローバル社会ならではの社会問題を解決すべく行われているさまざまな社会貢献、国際貢献活動の現状と課題についての基礎的な理解を示すことができる。さらに、自己や社会についての課題を発見し、さまざまな条件、制約を考慮してその解決策を吟味・選択し、目標設定を行い、計画を立て、結果を予測しながら実践することができる力、そしてそのプロセスを振り返って次の問題発見・解決につなげていくことができる力を身につけることができる。 【MCC10】◎課題解決力 ○社会問題理解	2	2～		3				○	◎
NGO/NPOインターンシップ演習Ⅰ	既存の学生プロジェクトに参加する学生が、自分が属するプロジェクトを「公益性のある非営利組織」として評価・分析し、課題や特色を見つけ出し、解決・改善する道筋を検討し、実際にメンバーに提案し働きかけることを通じて、プロジェクトをよりよいものに発展させる方法について実践を通じて学ぶ	組織や事業の評価の仕方を学び、より発展させていくために必要な視点とスキルを身につける。 【MCC10】◎問題解決理解、課題解決力 ○社会問題理解、異文化間コミュニケーション力、共有型リーダーシップ	2	2～	前期または後期	3		ディスカッション、グループワークグループワーク		◎	◎
NGO/NPOインターンシップ演習Ⅱ	自分が属するプロジェクトを「公益性のある非営利組織」として評価・分析し、課題や特色を見つけ出し、解決・改善する道筋を検討し、実際にメンバーに提案し働きかけることを通じて、プロジェクトをよりよいものに発展させる方法について実践を通じて学ぶ。	組織や事業の評価の仕方を学び、より発展させていくために必要な視点とスキルを身につける。 【MCC10】◎問題解決理解、課題解決力 ○社会問題理解、異文化間コミュニケーション力、共有型リーダーシップ	2	2～	前期または後期	3		ディスカッション、グループワークグループワーク		◎	◎
グローバルキャリア演習Ⅰ	5日～10日にわたる実際の企業へのインターンシップ(又はイベントのプロデュース)により、実際に働くこと(実習)又は実際の企業における課題を理解し解決案を探ること(課題解決)を通じて、グローバル人材に求められる能力・資質について自ら体験を通じて実感を持って発見・理解することを目的とする。	(1)インターンシップを通じて自らが事前にたてた目標の到達度を判定し、インターンシップで得られたもの、得られなかったことについて客観的な評価を下し、その改善のために必要な取り組みについて説明できる。(2)インターンシップ先が求める人材像について基本的な説明ができ、自らの能力・資質と比較することができる。 【MCC10】◎課題解決力 ○異文化コミュニケーション力、共有型リーダーシップ	1	2～		3				◎	◎
グローバルキャリア演習Ⅱ	5日～10日にわたる実際の企業へのインターンシップ(又はイベントのプロデュース)により、実際に働くこと(実習)又は実際の企業における課題を理解し解決案を探ること(課題解決)を通じて、グローバル人材に求められる能力・資質について自ら体験を通じて実感を持って発見・理解することを目的とする。	(1)インターンシップを通じて自らが事前にたてた目標の到達度を判定し、インターンシップで得られたもの、得られなかったことについて客観的な評価を下し、その改善のために必要な取り組みについて説明できる。(2)インターンシップ先が求める人材像について基本的な説明ができ、自らの能力・資質と比較することができる。 【MCC10】◎課題解決力 ○異文化コミュニケーション力、共有型リーダーシップ	1	2～		3				◎	◎
ソーシャル・ビジネス演習	授業を履修する学生が自らの課題意識をもって、それぞれの社会起業の企画案を作る	(1)社会的課題を自ら発見し、定性的、定量的に把握すること (2)その社会的課題に対して適切な解決策を立案すること (3)その解決策を持続させるための方法を企画すること 【MCC10】◎問題解決理解、課題解決力 ○社会問題理解、共有型リーダーシップ	2	2～	前期	3		ディスカッションなど		◎	◎
日本語表現演習	分かりやすく、簡潔で、読み手に届く日本語の文章を書く方法を初歩から学ぶ。社会人になるにあたって最低限身につけておきたい言葉の使い方(敬語など)も知る。宣伝や手紙文などの実用文、報道文や評論、小論文まで、多彩な文章に触れて、表現形式を理解する。与えられたテーマにしたがって実際にさまざまな文章の書き方を身につけていく。	さまざまな文章の性格の違いやおもしろさを理解する。必要と目的に応じて、わかりやすい日本語で的確な文章をつづったり、話したりすることができるようになる。 【MCC10】◎言語運用力(外国語)	2	1～	前期	1				◎	
メディアの読み方	多様なメディアの情報を読み解き、真実を見極め、生活に活用する「メディア・リテラシー」の能力を高める。	新聞記事を読み、要約し、社会の出来事を理解することができる。 【MCC10】◎メディアリテラシー ○社会問題理解	2	2～	後期	2				○	◎
英語リスニングⅠ	能力別クラスでの演習を行いつつ、多文化的なトピックで授業を行う。初級レベルでは多文化的なトピックを理解し、具体的な要求を満たす上で最低限必要な日常表現や基本フレーズを聞き取る力を、上級レベルでは日常の身近な話題や多文化的なトピックについて、標準的な英語を聞き取る力を養うことを目的とする。	初級レベルでは多文化的なトピックを理解し、具体的な要求を満たす上で最低限必要な日常表現や基本フレーズを聞き取る力、上級レベルでは日常の身近な話題や多文化的なトピックについて、標準的な英語を聞き取る力、上級レベルでは日常の身近な話題や多文化的なトピックについて、標準的な英語を聞き取る力を養うことを目的とする。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	○ 1		1				○	◎

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目						
英語リスニングⅡ	能力別クラスでの演習を行いつつ、多文化的なトピックで授業を行う。初級レベルでは多文化的なトピックを理解し、具体的な要求を満たす上で最低限必要な日常表現や基本フレーズを聞き取る力を、上級レベルでは日常の身近な話題や多文化的なトピックについて、標準的な英語を聞き取る力を養うことを目的とする。	初級レベルでは多文化的なトピックを理解し、具体的な要求を満たす上で最低限必要な日常表現や基本フレーズを聞き取るができる。上級レベルでは日常の身近な話題や多文化的なトピックについて、標準的な英語を聞き取るができる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	○	1				○	◎			
英語スピーキングⅠ	This class is designed to help students communicate with native speakers in natural English. Classes will emphasize the following: Language practice from controlled language to freer expression, pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas, and opinions.	The course outcome is to help develop students' comfort in speaking English and improving their fluency. Students will be able to: 1. Make simple English conversations.2. Develop English vocabulary.3. Improve their listening skills. 4. Gain grammar knowledge. 5. Be more comfortable with reading and comprehension. 6. Be able to express their own information, ideas, and opinions. 7. Make presentations and improve pronunciation and fluency. 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	○	2	前期		2	—	○	◎		
英語スピーキングⅡ	This class is designed to help students communicate with native speakers in natural English. Classes will emphasize the following: Language practice from controlled language to freer expression, pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas, and opinions.	The course outcome is to help develop students' comfort in speaking English and improving their fluency. Students will be able to: 1. Make simple English conversations.2. Develop English vocabulary.3. Improve their listening skills. 4. Gain grammar knowledge. 5. Be more comfortable with reading and comprehension. 6. Be able to express their own information, ideas, and opinions. 7. Make presentations and improve pronunciation and fluency. 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	○	2	後期		2	—	○	◎		
韓国語Ⅰ	韓国語の文字と発音を正確に身に付けるように学習する。簡単な日常的表現と基礎文法を習う。自己紹介や個人的な情報について質問し、答えられる。	簡単な会話や日常的な表現を身につけることができる。「ハングル能力検定試験」4級レベル、「韓国語能力試験」2級レベルが到達目標である。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2		1～	前期		1	グループワーク	○	◎		
韓国語Ⅱ	韓国語の基礎文法を完成させる。特に用言の活用に重点をおいて学習する。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について質問し、答えられる。	簡単な会話や日常的な表現を身につけることができる。「ハングル能力検定試験」4級レベル、「韓国語能力試験」2級レベルが到達目標である。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2		1～	後期		1	グループワーク	○	◎		
韓国語Ⅲ	韓国語1、2で学んだ基礎文法を確実なものにする。日常生活における基本的な表現を理解し、情報交換に応じられるようにする。自分の背景や身の回りの状況や直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。	韓国語の基礎文法が理解できる。日常生活における基本的な表現を駆使できる。「韓国語能力試験」3級、「ハングル能力検定試験」4級レベルが到達目標である。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2		1～	前期		2	グループワーク	○	◎		
韓国語Ⅳ	韓国語1、2、3で学んだ文法を確実なものにする。日常生活における基本的な表現を理解し、問題なく使えるようにする。日常生活における基本的な表現を理解し、問題なく使えるようにする。さらに読解力・文章表現力・聴解力・口頭表現力を養う。	日常生活における基本的な表現を駆使できる。使用頻度の高い慣用句や比較的長い文章を理解できる。「韓国語能力試験」4級、「ハングル能力検定試験」3級レベルが到達目標である。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2		1～	後期		2	グループワーク	○	◎		
中国語Ⅰ	中国語の発音を習得し、簡単なあいさつなどが話せるようになる。	ピンインを見て正確な発音ができ、SVO構文の簡単なセンテンスが使える。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2		1～	前期		1	グループワーク	○	◎		
中国語Ⅱ	中国語の基本的な語法を習得し、語彙を増やす。	補語をのぞいた基本的な文法について理解する。語彙を自習して補えば中国語検定準4級が受験できるレベルに到達する。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2		1～	後期		1	グループワーク	○	◎		

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム								カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目			
中国語Ⅲ	補語について基本的な理解を得、文法についてはその大枠をつかむ。	文法について一通り全般的な理解を得る。語彙を自習して補えば中国語検定4級が受験できるレベルに到達する。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	前期	2	グループワーク	○	◎		
中国語Ⅳ	基本的な文法や語学表現力を更に高めていくとともに、中国と中国文化に対する理解をより深めていく。	中国語で簡単な日常会話と意思表示ができる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	後期	2	グループワーク	○	◎		
マレー・インドネシア語Ⅰ	インドネシア語の発音と初歩的な文法事項を理解し、挨拶、お礼の表現等の初歩的な会話ができるようになる。インドネシア語文化圏の概略を理解する。	インドネシア語文化圏の背景を学びながら、挨拶やお礼の表現など、初歩的なコミュニケーションがアクティブに行えるようになることを目標とする。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	前期	1	グループワーク	○	◎		
マレー・インドネシア語Ⅱ	インドネシア語の初歩的な文法事項を習得し、リスニングや会話の練習を通じて初歩的な会話聞き取り理解でき、話せるようになる。	インドネシア語の初歩的な文法事項を習得し、初歩的な会話聞き取り、理解でき、話せるようになることを目標とする。インドネシア語技能検定B級レベルの力をつけ更に次のD級レベルをも視野に学習する。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	後期	1	グループワーク	○	◎		
マレー・インドネシア語Ⅲ	基本的なインドネシア語を理解し、挨拶や自己紹介、伝言、道案内等ができるようにする。簡単な手紙、掲示、商品の説明書等の読み書き、簡単な電話の応対ができるようにする。	インドネシア語検定D級レベルの力をつけることを到達目標とする。基本的なインドネシア語を理解し、挨拶や自己紹介、伝言、道案内等ができる能力を身に付ける。簡単な手紙、掲示、商品の説明書等の読み書きができ、簡単な電話の応対ができる力を身につける(手紙で女性が使用する結語や電話の際の表現等も併せて学ぶ)。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	前期	2	グループワーク	○	◎		
マレー・インドネシア語Ⅳ	日常生活に必要な基本的なインドネシア語を口頭で自由に表現できる。民話や物語、歌の歌詞等が理解でき、手紙が書け、電話の応対ができる。インドネシア語のことわざ、イディオム、オノマトペの表現等を含む様々な言い回しができる力をつける。	基本的なインドネシア語を自由に口頭表現でき、民話や物語、歌の歌詞等が理解でき、手紙が書け、電話の応対ができるようになることを目標とする。インドネシア語のことわざ、イディオム、オノマトペ等の表現も学習し、インドネシア語技能検定C級に合格できる力をつけることを目標とする。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	後期	2	グループワーク	○	◎		
TOEICリーディング演習初級	世界の多様な社会、文化、思想、歴史についての豊富な知識を身につけ、他者との適切な交流や交渉をおこなっていく上での一つの手段として、英語運用能力の向上が求められる。本授業ではそのために、英文を読む力、特に文章中の重要部分を精読しながら、速読によって文意を素早く把握できる読解力、語彙力、文法力を身につけることができる。世界的多様な社会、文化、思想、歴史についての豊富な知識を身につけ、他者との適切な交流や交渉をおこなっていく上での一つの手段として、英語運用能力を向上させることができる。	TOEIC TESTにおけるリーディング・セクションを基礎から実践まで学習し、スコアをアップすることができる。・英文を読む力、特に文章中の重要部分を精読しながら、速読によって文意を素早く把握できる読解力、語彙力、文法力を身につけることができる。・世界の多様な社会、文化、思想、歴史についての豊富な知識を身につけ、他者との適切な交流や交渉をおこなっていく上での一つの手段として、英語運用能力を向上させることができる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	前期	1	-	○	◎		
TOEICリーディング演習中級	世界の多様な社会、文化、思想、歴史についての豊富な知識を身につけ、他者との適切な交流や交渉をおこなっていく上での一つの手段として、英語運用能力の向上が求められる。本授業ではそのために、英文を読む力、特に文章中の重要部分を精読しながら、速読によって文意を素早く把握できる読解力、語彙力、文法力、読解力を身につけることを目的とする。具体的には、TOEIC TESTにおけるリーディング・セクションを基礎から実践まで学習し、スコアアップを目指す。	TOEIC TESTにおけるリーディング・セクションを基礎から実践まで学習し、スコアをアップすることができる。・英文を読む力、特に文章中の重要部分を精読しながら、速読によって文意を素早く把握できる読解力、語彙力、文法力を身につけることができる。・世界の多様な社会、文化、思想、歴史についての豊富な知識を身につけ、他者との適切な交流や交渉をおこなっていく上での一つの手段として、英語運用能力を向上させることができる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	後期	2	-	○	◎		

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目				
TOEICリスニング演習初級	英語リスニング力の強化を中心としながらも、「受講生参加型」のレッスンにより、学習者の英語学習に対する否定的なイメージを払拭して学習意欲を高めると同時に、スピーキング力を含めた総合的な英語力を養成する。	TOEICテストで用いられる5つのアクセント(アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド)に慣れることを含め、リスニングへの恐れや不安を軽減し、「聴けること」の楽しみを知る。また、短時間に必要な情報を効率的に聞き取ることができるようになる。	2	1～	前期	1	—	○	◎		
TOEICリスニング演習中級	英語リスニング力の強化を中心としながらも、「受講生参加型」のレッスンにより、学習者の英語学習に対する否定的なイメージを払拭して学習意欲を高めると同時に、スピーキング力を含めた総合的な英語力を養成する。	Part 1: 人物の行動・建物や乗り物などの写真を見て瞬時に状況を把握し、設問を予測することで、スコアアップを目指す。Part 2: 疑問詞の聞き取りから、質問内容を正確に予測することを目指す。Part 3: 2人の会話の大筋の把握を目指す。Part 4: アナウンス・広告等の大筋の把握を目指す。	2	1～	後期	2	—	○	◎		
集中英会話	To be able to fluently express your opinions on a variety of life issues in English.	To be able to fluently express opinions on a variety of life issues in English.	2	1～	前期	2		○	◎		
英語ライティング I	英語の文法および構文に関する基礎知識を復習し、その知識を活用して正しいパラグラフを書く技術を身につける。また身近な話題について平易なパラグラフが書けるようになることを目指す。	英語の基本構文を理解し、文法に即した簡潔でわかりやすい日々の暮らしに必要な英文が書けるようになる。	2	1～	前期	2	—	○	◎		
英語ライティング II	英語の文法および構文に関する基礎知識を復習し、その知識を活用して正しいパラグラフを書く技術を身につける。また身近な話題について平易なパラグラフが書けるようになることを目指す。	英語の基本構文を理解し、文法に即した簡潔でわかりやすい日々の暮らしに必要な英文が書けるようになる。	2	1～	後期	2	—	○	◎		
アクティブ・ランゲージ・ラーニング I	ネイティブスピーカーのもと、少人数グループの中の会話練習によって、「話す」ことへの抵抗をなくし、留学時にスムーズにコミュニケーションが取ることができる準備をする。多文化GCP長期留学プログラムに参加する動機づけとなり、学習意欲が増すことを目指す。	CEFR A2レベルの会話に臆することなく加わることができるようになる。 ・ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 ・簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。 ・自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。	1	1～		1		○	◎		
アクティブ・ランゲージ・ラーニング II	「アクティブ・ランゲージ・ラーニング I」に引き続き、ネイティブスピーカーとの会話練習を通して話す、聞く力を更に伸ばす。言語とともに文化、社会を学び、課題のマテリアルを用いて、単なる日常会話を越えた、論理的なディスカッションを中心に取り組む。	CEFR B1レベルの会話に加わることができるようになる。 ・仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。 ・その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。 ・身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。 ・経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるることができる。	2	2～		2		○	◎		

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目			
アクティブ・ランゲージ・ラーニングⅢ	「アクティブ・ランゲージ・ラーニングⅡ」に引き続き、ネイティブスピーカーとの会話練習を通して話す、聞く力を更に伸ばす。言語とともに文化、社会を学び、課題のマテリアルを用いて、単なる日常会話を越えた、論理的なディスカッションを中心に取り組む。	CEFR B2レベルの会話に加わることができるようになる。 ・自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。 ・お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。 ・かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	2～		3	○	◎		
アクティブ・ランゲージ・ラーニングⅣ	「アクティブ・ランゲージ・ラーニングⅢ」に引き続き、ネイティブスピーカーとの会話練習を通して話す、聞く力を更に伸ばす。言語とともに文化、社会を学び、課題のマテリアルを用いて、単なる日常会話を越えた、論理的なディスカッションを中心に取り組む。	CEFR B2レベルの会話に臆することなく加わることができるようになる。 ・自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。 ・お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。 ・かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	2～		3	○	◎		
アクティブ・ランゲージ・ラーニングⅤ	「アクティブ・ランゲージ・ラーニングⅣ」に引き続き、ネイティブスピーカーとの会話練習を通して話す、聞く力を更に伸ばす。言語とともに文化、社会を学び、課題のマテリアルを用いて、単なる日常会話を越えた、論理的なディスカッションを中心に取り組む。	CEFR B12-A1レベルの会話に加わることができるようになる。 ・自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。 ・お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。 ・かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	2～		3	○	◎		
上級TOEIC演習A	授業、及び授業外での学習を通して、TOEIC700点対策のためのビジネス英語運用能力を高め、かつ語彙、文法、リスニング、リーディングなどあらゆる分野においての英語力を高めるとともに、自律した学習者となることを目的とする。	本コース終了時にTOEIC700点以上取得、または50点アップを目標とし、そのため、以下の3点を目標とする。 1) 語彙、文法、リーディング、リスニングにおいては、苦手な分野を克服し、得意な分野では高い英語力を身につけること 2) TOEICの出題形式に慣れ、効率的な問題の解き方を身につけること 3) 目標達成を目指すために自律的に学習すること 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	2～		2	○	◎		
上級TOEIC演習B	上級TOEIC演習Bの学びを基に、授業、及び授業外での学習を通して、TOEIC600点対策のためのビジネス英語運用能力を高め、かつ語彙、文法、リスニング、リーディングなどあらゆる分野において、さらに英語力を高めるとともに、自律した学習者となることを目的とする。	本コース終了時にTOEIC700点以上取得、または50点アップを目標とします。 そのため、以下の3点を目標とします。 1) 語彙、文法、リーディング、リスニングにおいては、苦手な分野を克服し、得意な分野ではより高い英語力を身につけること 2) TOEICの出題形式に慣れ、より効率的な問題の解き方を身につけること 3) 目標達成を目指すためにさらに自律的に学習すること 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	2～		2	○	◎		
韓国語演習Ⅰ	韓国語の文字の読み書き、発音を習得する。韓国語の構造を理解し、韓国語の基礎文法を学習する。あいさつ表現、自己紹介ができる。	ハングル文字の読み書きおよび発音を正確に身につける。簡単な会話および平易な文章が書ける。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	前・後期	1	グループワーク	○	◎	

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム								カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目			
韓国語演習Ⅱ	韓国語の文字、発音を習得する。簡単な日常的表現と基礎文法を習う。	ハングル文字を正しく発音し、正確に書ける。簡単な日常表現および基礎文法を確実に理解できる。使用頻度の高い決まり文句やあいさつ表現を理解し、表現できる。私的な話題であれば質問し、答えられる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	前・後期	1	グループワーク	○	◎		
韓国語演習Ⅲ	韓国語中級レベルの学習者を対象に、文法や単語、会話等を習得する。	日常会話はもちろん、新聞やドラマなどで使われる生の韓国語を楽しめる。中級ハングル能力試験やTOPIKに準拠する文法・表現を学ぶことを目指す。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	前期	2	グループワーク	○	◎		
韓国語演習Ⅳ	韓国語中級レベルの学習者を対象に、文法や単語、会話等を習得する。	日常会話はもちろん、新聞やドラマなどで使われる生の韓国語を楽しめる。中級ハングル能力試験やTOPIKに準拠する文法・表現を学ぶことを目指す。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	後期	2	グループワーク	○	◎		
中国語演習Ⅰ	中国語の発音を習得し、簡単な自己紹介、日常会話ができるようになる。	ピンインを見て正確な発音ができ、簡単な自己紹介、日常会話ができる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	前期	1	グループワーク	○	◎		
中国語演習Ⅱ	中国語検定準4級、4級受験が可能能力をつける。	リスニング、長文読解、文法のレベルアップを目指す。来年度春の検定で準4級試験に合格する。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	後期	1	グループワーク	○	◎		
中国語演習Ⅲ	まずリスニング力をあげるための基礎となる自らの発音の癖を積極的に直す作業を行う。その後、中国語検定4級レベルのリスニングを中心に様々な中国語音声に触れ、楽しみながら慣れていく。中国語の耳を鍛えると同時に、ディクテーションを通して、文法の正確さをあげる。その後、瞬間作文を行い、会話実践力をあげることをねらいとする。	中国語のリスニング力を上げ、結果的に中国語検定4級のリスニングが合格できる力をつけられるようになる。またディクテーションや瞬間作文を通して会話の実践力も上げられる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	前期	2	グループワーク	○	◎		
中国語演習Ⅳ	中国語検定3級レベルのリスニングを中心に様々な中国語音声に楽しみながら慣れていく。中国語の耳を鍛えると同時に、ディクテーションを通して、文法の正確さをあげる。その後、瞬間作文を行い、会話実践力をあげることをねらいとする。	中国語のリスニング力を上げ、結果的に中国語検定3級のリスニングが合格できる力をつけられるようになる。またディクテーションや瞬間作文を通して会話の実践力も上げられる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	後期	2	グループワーク	○	◎		
マレー・インドネシア語演習Ⅰ	バリ島を旅している気持ちになって楽しく学ぶ。バリ島の大学生の生活映像を見ながら、バリ、ジャワなどを含むインドネシア全土で話されている公用語「インドネシア語」の初歩的会話ができるようになる。	バリの映像を背景に、現地にいるような雰囲気の中、インドネシア語の初歩的会話を自然な形で学ぶことを目標とする。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	前期	1	グループワーク	○	◎		
マレー・インドネシア語演習Ⅱ	・インドネシア語技能検定試験E級、D級に合格する語学力を身につける	インドネシア語の単語力、文法力、作文力、リスニング力を高め、インドネシア語技能検定試験E級またはD級に合格できるよう指導する。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	後期	1	グループワーク	○	◎		
マレー・インドネシア語演習Ⅲ	インドネシア語検定D級レベルの読解力と作文力を身につけ、さらにインドネシアについての知識を深める。	インドネシア語で書かれた様々な文章(ニュース記事、エッセイ、ビジネス文書など)の内容を、辞書を使いながら理解することができるようになる。インドネシア語で簡単な文書が作成できるようになる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	前期	2	グループワーク	○	◎		
マレー・インドネシア語演習Ⅳ	インドネシア語を用い、インドネシアの料理、身体芸術、文芸等に触れることによって、インドネシアの社会と文化に対する理解を深める。	インドネシアの歌や伝統芸術・慣習について、その意味や歴史的背景を読み解けるようになり、インドネシア語の料理レシピを日本語に訳せるようになり(可能であれば1つ実際に調理して試食する)、インドネシアの小・中学校の教科書に掲載されている内容を日本語に訳せるようになることを目標とする。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	後期	2	グループワーク	○	◎		

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目				
Global Current Affairs I	グローバル化が進む現代で、多文化社会との適切な交流や交渉を行なうためには、日本とは異なる世界の多様な社会、文化、思想、歴史についての豊富な知識をもち、理解していることが必要である。またそれらの知識を交流や交渉に利用する上で、多彩な言語運用能力—本科目では英語—も求められる。そのために本科目では、日本と文化的、社会的、歴史的に深く長い関係をもつアメリカ合衆国の様々なトピックを、最近のニュース記事や論考等を通して英語で読み解き、アメリカという多文化を学びつつ、その課題や問題点についても考え、ディベートを行ないたい。なお本科目は、英語をより多く用いながら学ぶ後期「多文化英語VIII」と連動しているため、その導入にあたる当授業では、講義は基本的に日本語でおこなうが、状況に応じて適宜英語も補完的に使用する。	・英語で書かれたニュース記事や論考を読んで内容を理解し、その概要を述べるようになる。 ・日本以外の多文化社会に関心を持ち、日本との相違や、そこで生じている課題や問題を知り、それに対する自分の意見を述べ、ディベートすることができるようになる。 【MCC10】◎言語運用力(外国語)、社会問題理解 ○言語理解(外国語)、問題解決理解	2	1～	前期	3		◎	◎		
Global Current Affairs II	・本科目では、「難民と国内避難者」と「女性と性的少数者」という視点から、社会的弱者の疎外と社会への受け入れについて英語で学ぶ。トピックに関する日本や世界の状況について、最近の英語のニュース、新聞・雑誌記事等を通して学習し、課題や問題点について考える。また、メディア記事等を理解するために必要な英語のキーワードや表現方法等も学習し、読解力を高める。 ・基本的に授業は英語でおこなうが、状況に応じて日本語も補助的に使用する。	・世界で社会的弱者の人々が直面している諸問題に関心を持ち、なぜそのような問題が生じているのか、どのような解決策が模索されているのかを理解する。また、それらについて自らの考えを英語で説明し、意見を述べるができるようになる。 ・英語文献を読み、その概要を述べるができるようになる。 ・ProQuest等の英語データベースを使いこなすことができるようになる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	後期	3	グループワーク、ディスカッションなど	◎	◎		
韓国語 V	初級レベルで学んだ文法・表現をもとにさらに複雑な表現・文法を練習することで「韓国語で話す・聞く・書く・読むこと」を総合的に学ぶ。関心のある話題について説明し、意見が言える。	文法と表現は中級レベルのハングル検定やTOPIKに対応できることをめざす。正確な発音で豊富な表現や聞き取りができる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	前期	3	グループワーク	○	◎		
韓国語 VI	初級レベルで学んだ文法・表現をもとにさらに複雑な表現・文法を練習することで「韓国語で話す・聞く・書く・読むこと」を総合的に学ぶ。関心のある話題について説明し、意見が言える。	中級レベルのハングル検定やTOPIKに対応できることをめざす。正確な発音で豊富な表現や聞き取りができることを目標とする。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	後期	3	グループワーク	○	◎		
中国語 V	中国語の話し、聴き、読む力を総合的に伸ばす。	日常会話で役立つ会話文の型を身につける。書き言葉の文章を読み取れるようになる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	前期	3	—	○	◎		
中国語 VI	中国語の話し、聴き、読む力を実践的に伸ばす。	日常会話で役立つ会話文の型を身につける。書き言葉の文章を読み取れるようになる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～	後期	3	—	○	◎		
マレー・インドネシア語 V	日常生活に必要なインドネシア語を口頭で自由に表現でき、物語、広告、説明文等が読め、電話応対ができ、簡単な通訳や翻訳ができるようになることをねらいとする。 インドネシア語はマレー語を起源とする言語であり、互いの言語で意思疎通が可能である。授業ではインドネシア語を学びながら、マレーシア、シンガポールなどで話されているマレー語やその社会等についても同時に目を向けて学修する。	インドネシア語技能検定C級以上の力をつけ、更にB級をも視野に力をつけることを目指す。具体的には、日常生活に必要なインドネシア語を口頭で自由に表現でき、民話や物語等が理解でき、手紙やメール、日記等、日常生活の話題について書くことができ、電話の応対がスムーズにでき、広告、説明文が読め、ことわざ、イディオム、オノマトペ表現等を含む様々な言い回しが理解できるようになることを目指す。また、それらの学習の中で、マレー文化、インドネシア文化、社会について触れることにより、国際的な視野を養うことを目標とする。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～		3		○	◎		

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目			
マレー・インドネシア語Ⅵ	日常生活の他、職場で必要なインドネシア語についても理解し、自由に表現でき、職場での電話応対や通訳ができ、新聞記事、小説、詩が読め、業務文書、公文書を含む様々な書類を書くことができるようになることをねらいとする。 インドネシア語はマレー語を起源とする言語であり、互いの言語で意思疎通が可能である。授業ではインドネシア語を学びながら、マレーシア、シンガポールなどで話されているマレー語やそれらに関する社会、習慣、民族等についても同時に目を向けて学修する。	インドネシア語技能検定B級合格を目指し、さらに上の級をも視野に学びを深める。具体的には、一般的な日常会話が自由にできる他、職場や社会生活に必要なインドネシア語についても理解し使用することができ、新聞記事、文献等を読んで翻訳でき、業務文書が書け、通訳ができ、会議等の内容を正しく理解でき、小説、詩が読め理解でき、職場での電話応対がスムーズにでき、ことわざ、イディオム、オノマトペ表現等を含む様々な言い回しができるようになることを目指す。また、それらの学習の中で、マレー文化、インドネシア文化、社会について触れることにより、国際的な視野を養うことを目標とする。	2	1～		3	○	◎		
韓国語実践会話Ⅰ	公式な場面、非公式な場面に応じて適切な表現を選んで使いこなせ、また口語、文語を適切に区分し、使えることができる能力を養う。また、韓国語学習の中で韓国の文化・社会や韓国事情について触れることにより国際的な視野を養う。	韓国語を日常生活に支障のない程度のレベルで自由自在に使いこなせる。政治、文化、社会、経済等に関する話題や馴染みのない話題についても理解し、自分の意見を具体的に述べるができる。また、慣用語、ことわざ、四字熟語などを使い、言いたいことが正確に言える能力を身につける。到達目標は「韓国語能力試験」5級、「ハングル能力検定試験」準2級レベルである。	2	1～		3	○	◎		
韓国語実践会話Ⅱ	様々な場面で使われる韓国語を正確に理解し、ネイティブスピーカーと遜色のない韓国語能力を身につける。相手、場面、状況に応じて的確に自分の意見を述べることができ、複雑な内容の講演や演説を聞いて内容をまとめ、説明できる。また、韓国語学習の中で韓国の文化・社会や韓国事情について触れることにより国際的な視野を養う。	歴史、文化、社会、政治、経済、教育などに関する文章を読んで内容要約をし、自分の意見を述べられる。議論や対話の中で自分の知らない単語を話の流れからほぼ把握できる。標準語と方言の区別ができ、よく使われる方言も理解できる。到達目標は、「韓国語能力試験」6級、「ハングル能力検定試験」2級レベルである。	2	1～		3	○	◎		
中国語実践会話Ⅰ	公式な場面、非公式な場面に応じて適切な表現を選んで使いこなせ、また口語、文語を適切に区分し、使えることができる能力を養う。また、中国語学習の中で中国の文化・社会や中国事情について触れることにより国際的な視野を養う。	中国語を日常生活に支障のない程度のレベルで自由自在に使いこなせる。政治、文化、社会、経済等に関する話題や馴染みのない話題についても理解し、自分の意見を具体的に述べるができる。また、慣用語、ことわざ、四字熟語などを使い、言いたいことが正確に言える能力を身につける。到達目標はCEFR C1レベル。	2	1～		3	○	◎		
中国語実践会話Ⅱ	様々な場面で使われる中国語を正確に理解し、ネイティブスピーカーと遜色のない中国語能力を身につける。相手、場面、状況に応じて的確に自分の意見を述べることができ、複雑な内容の講演や演説を聞いて内容をまとめ、説明できる。また、中国語学習の中で中国の文化・社会や中国事情について触れることにより国際的な視野を養う。	歴史、文化、社会、政治、経済、教育などに関する文章を読んで内容要約をし、自分の意見を述べられる。議論や対話の中で自分の知らない単語を話の流れからほぼ把握できる。到達目標は、CEFR C ² レベル	2	1～		3	○	◎		
マレー・インドネシア語実践会話Ⅰ	中級レベル以上の学生を対象とし、インドネシア語及びマレー語を用いて中級レベル以上のコミュニケーションが自由になることをねらいとする。また、それらの学習の中で、マレー文化、インドネシア文化、社会に触れることにより、国際的な視野を養う。	インドネシア語及びマレー語で、中級レベル以上の様々な文脈を理解し自由に使うことができるよう、会話に重点を置いた訓練を重ねることにより、インドネシア語技能検定B級合格を目指す。また、それらの学習の中で、マレー文化、インドネシア文化、社会について触れることにより、国際的な視野を養うことを目標とする。	2	1～		3	○	◎		

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目			
マレー・インドネシア語実践会話Ⅱ	中級レベル以上の学生を対象とし、インドネシア語及びマレー語を用いて、様々な場面やシチュエーションに応じたインドネシア語及びマレー語のコミュニケーションが自由に行えるようになることをねらいとする。また、それらの学習の中で、マレー文化、インドネシア文化、社会に触れることにより、国際的な視野を養う。	インドネシア語及びマレー語で、中級レベル以上の様々な文脈を理解し、自由に使うことができることに加え、シチュエーションに応じた適切な言葉を選び、様々な分野や場面における適切な文を作成し、TPOに応じた正しいインドネシア語会話及びマレー語会話が流暢に行えることを目指し、会話に重点を置いた訓練を重ねる。インドネシア語技能検定B級合格を目指し、さらに上の級をも視野に学びを深める。また、それらの学習の中で、マレー文化、インドネシア文化、社会について触れることにより、国際的な視野を養うことを目標とする。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	1～		3	○	◎		
ビジネスコミュニケーション	中級レベルの英語力を前提に、ビジネスの場面で必要とされる英語のコミュニケーションスキル(特に話す・書くスキル)を身に付ける。	ビジネスにおいて必要とされるポライテネスを用いて英語が表現できるようになる。具体的にはアポイントメントをとる、提案・依頼・承諾・拒否するなどが効果的にできるようになることを目指す。 【MCC10】◎言語運用力(日本語) ○言語理解(外国語)、文化理解	2	1～	前期・後期	1	◎	○	○	△
ツーリズムの英語	中級レベルの英語力を前提に、ツーリズムの場面で使われる英語の運用能力を高めることを目的とする。	旅行業、宿泊業を中心とした場面で求められる英語の語彙力・表現力・リーディングスキルを身に付ける。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	2～	前期・後期	2	◎	○	○	△
貿易実務の英語	貿易実務検定試験C級を想定し、貿易実務に関わる英文を読み、書けるようになることを目的とする。また、英文ニュース記事等を利用して、貿易経済をめぐる現代的問題についての理解を深める。中級レベルの英語力を前提とし、「ビジネスコミュニケーション」を履修済みであることが望ましい。	貿易実務検定C級「貿易実務」科目の合格レベルただし、授業時間数が限られているため、検定試験の主要な部分を勉強する。 【MCC10】◎言語運用力(日本語) ○言語理解(外国語)	2	2～	前期	2	◎	○	○	○
World Language 特別演習Ⅰ	CEFR B2～C1程度の学生を対象とする。WL各言語において、留学から帰国した学生、もしくは同等レベルの学生を対象に、社会生活において広く対応できる語学運用能力を鍛える。社会的な課題について様々な情報を収集し、理解し、要約する技能を習得する。また、各自が社会的課題に基づくテーマを設定しプレゼンテーションする実践力を養うことを目指す。	【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	2～		3	◎	◎		
World Language 特別演習Ⅱ	CEFR C1程度の学生を対象とする。WL各言語において、留学から帰国した学生、もしくは同等レベルの学生を対象に、通訳、翻訳、ビジネス関係も含め、社会生活において広く対応できる語学運用能力を鍛える。社会的な課題について様々な情報を収集し、細部にわたり理解し、要約する技能を習得する。また、各自が社会的課題に基づくテーマを設定し、その解決に向かい行動する力を養うことを目指す。	【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語) ○文化理解	2	2～		3	◎	◎		
英語翻訳演習	CEFR-JのB2～C1レベルの学生を対象とする。英語の文を適正な日本語に翻訳する力を身につけ、英語で発想された文を日本語の発想に基づく文章に転換するスキルを身につける。具体的にはビジネス、ジャーナリズム、学術といった分野の英語の文章を素材に学習する。留学から帰国した学生を対象とする事後学習プログラムのひとつである。	ビジネス、ジャーナリズム、学術といった分野の英語の文章を適正な日本語に翻訳することができる。英語で発想された文を日本語の発想に基づく文章に転換することができる。 【MCC10】◎言語理解(外国語)、言語運用力(日本語)	2	3～		3		◎		
基礎演習Ⅰ	4年間の学習計画を立てるとともに、4年間の学びに必要な力を身につけるためのアカデミックスキルズを身につける。	大学4年間に必要な発表形式やレジュメの作り方、パワーポイントの作成方法、議論の方法などを身につける。 【MCC10】◎言語運用力(日本語) ○メディア・リテラシー、異文化間コミュニケーション力、共有型リーダーシップ、課題解決力	2	1	前期	1		◎	◎	○
基礎演習Ⅱ	4年間の学びに必要な力を身につけるためのアカデミックスキルズを身につける。	大学4年間に必要な発表形式やレジュメの作り方、パワーポイントの作成方法、議論の方法などを身につける。 【MCC10】◎言語運用力(日本語) ○メディア・リテラシー、異文化間コミュニケーション力、共有型リーダーシップ、課題解決力	2	1	後期	1		◎	◎	○

多文化コミュニケーション学科のカリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目				
グローバル・シティズンシップ演習Ⅰ	来年度の卒業論文卒業制作に向けて、調査方法の習得、文献の読解の訓練を行う。	必要な資料を検索し、図書館などで利用できるスキルを習得する。 【MCC10】◎言語運用力(日本語)、メディア・リテラシー ○文化理解、社会問題理解、課題解決力、多文化共生構想力	2	○	3	前期	3	発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション	◎	◎	◎
グローバル・シティズンシップ演習Ⅱ	卒業制作・卒業論文の構想発表に向けて準備を行う。	論文・制作のアウトラインを完成する。 【MCC10】◎言語運用力(日本語)、メディア・リテラシー ○文化理解、社会問題理解、課題解決力、多文化共生構想力	2	○	3	後期	3	発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション	◎	◎	◎
卒業研究Ⅰ	卒業制作・論文の質を高めるための調査、研究をすすめ、中間発表会に向けて準備する。	中間発表時に、制作・論文のアウトラインがはっきり見えているようにする。 【MCC10】◎言語運用力(日本語)、メディア・リテラシー ○文化理解、社会問題理解、課題解決力、多文化共生構想力	2	○	4	前期	4	発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション	◎	◎	◎
卒業研究Ⅱ	卒業制作・卒業論文を完成させる。	質の高い卒業制作・論文を提出する。 【MCC10】◎言語運用力(日本語)、メディア・リテラシー ○文化理解、社会問題理解、課題解決力、多文化共生構想力	2	○	4	後期	4	発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション	◎	◎	◎